

大航海時代と香料諸島

世界史を変えたインドネシアの島々

15 世紀から 17 世紀にかけてヨーロッパ諸国が進めた大航海時代は、どのような動機によって始まったのか。

命をかけて海へ乗り出した彼らの最大の目的は、インドネシアの赤道直下にある小さな島々(マルク諸島)でしか採れなかった貴重な香料を求めることであった。

その香料「丁子（クローブ）とナツメグ」は当時、同重量の金より高価であった。　本講演では、その歴史的背景と、「香料諸島」と呼ばれるこの地域を数年前に訪れた際の記録をまとめてお話ししたい。

講師　**宮崎　衛夫**　元三和銀行、三和総合研究所勤務



略歴 1965 年　大阪外国語大学インドネシア語科卒

1965 年　三和銀行（現：三菱 UFJ 銀行）入社

国内支店、国際本部、香港支店勤務、国内支店長など

1989 年　インドネシア三和銀行設立、初代社長

1998 年　三和総合研究所（現：三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング）

常務取締役国際本部長

2005 年　退社　以降、途上国開発コンサルタントとして独立

（1997 年～2007 年、大阪外国語大学・大阪大学非常勤講師）

2027 年 1 月 16 日(土)14:00-16:00　参加費無料

会場:大阪大学箕面キャンパス 2 階・学術交流室

メールまたはお電話にてお申し込みください

・E-mail :sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

・Tel:072-728-2327(月・木のみ)

お申し込みの際①～④をお知らせください　①名前(フリガナ)②卒業年(西暦)③語科④連絡先

お問合わせ:咲耶会事務局 HP